



# イキイキと働きたい まだまだ活躍したい そんな女性たちの 背中を押します

女性の在宅ワーク・起業支援  
 「ねこのて」代表  
**安藤摩里**さん

今、「少子化対策」は、我が国の深刻な課題となっています。その解決策のキーワードのひとつとして挙げられているのが「働く女性」たちの支援。  
 その支援に、真剣に取り組む人がいます。女性の在宅ワーク・起業支援「ねこのて」代表 安藤摩里さん 46歳。岐阜市内に事務所を構え、スタートしたのがこの4月。まだ日が浅いにもかかわらず、彼女のもとには早くも多くの相談や依頼が日々、舞い込んでいます。

安藤さんが起業を志すきっかけとなった出来事は、ご自身の「出産」でした。産休や育休の時間を過ごすなかで、世の中には子育てや介護などにより「出勤して勤務」することができない、けれど仕事をしたと思うって女性が多いことを改めて痛感しました。

何かをしたい、何かを始めたい。そんな女性たちが、楽しく、無理のないように仕事ができる場をつくりたい。そう強く思うようになり、まずは自宅のある美濃加茂市を拠点に「働く女性の支援事業」を、今から4年前に始めました。

## できることは、必ず見つかります

安藤さんのもとには  
 「何がしたい、けど何を始めたらいいか分からないし、これといって何もできない…」  
 そういった謙虚かつ、漠然としたまま相談に訪れる方も、かなり多くあるそうです。

商品・サービス開発の市場調査などと幅広くあります。  
 「近年、求人しても、なかなか応募がないなど人手不足に悩んでいる企業が数多くあります。そのような場合、雇用せずにアウトソーシングすることで、企業側はまだ経費削減ができます」  
 そう、安藤さんは分析します。  
 「今こそ企業は、在宅ワークを取り入れるチャンスです」  
 そんな提案を企業に続け、平成26年度までに成約数15社、また登録スタッフは92名と、わずか4年の間に美濃加茂市にはなくてはならない存在となりました。

「スタッフからは子供と接する時間を減らさずに仕事ができるようになったことで、充実感が伝わってきます。企業の皆さんからは、人を雇うことでのさまざまな悩みが軽減されて業務が捗ったなど、プラス効果の言葉をたくさんいただいています」

そして今回、この美濃加茂市での経験をフルに生かし、満を持して岐阜市での開業に至りました。  
 ここでは在宅ワークはもとより、女性の「起業支援」に、更に力を注ぎます。

## 女性ならではのビジネススタイル 「スマール起業」を推進

安藤さんは、これまでも数多くの女性起業家の育成・支援を行ってきました。  
 そのなかで、近年の女性の起業スタイルについての考えをこう語ります。  
 「起業家の、よくも悪くも仕事量を自分でコントロールできる点は、育児や介護などの時間を調整しながら働きたい女性に合っています。また、女性の起業の多くが生活をかけたものではないため、この利点を生かしての、

安藤さんは相談の際に、これまでの仕事の経験だけでなく、趣味や特技なども詳しく聞きます。  
 そして

## 「自分の力を生かして何がしたいという 思いがあれば、大丈夫」

そう、優しく背中を押します。  
 「本人は気付いていなくても、スキルはいろいろなのから見つかります」  
 |それを引き出すのが、私の仕事。  
 安藤さんの言葉には、自信が溢れます。

## 人手が足りない企業と、 働きたい女性たちを繋げたい

仕事をしたい女性たちの多くには「家事の手が空いた時間から始めたい」との思いがあり、安藤さんはまず「在宅ワーク」を勧めます。  
 その業務内容は、例えばデータ入力、WEBデザイン、

地域に根ざしたスマールビジネス、いわゆる「スマール起業」は、家庭のことと両立させたい女性にとっても向いていると思います」

この、安藤さんが勧める「スマール起業」とは、**がんばりすぎない起業スタイル**のこと。  
 それは、例えばパンを焼くことが得意な主婦が、地域特産の岐阜いちごを使用した美味しいパンを平日の昼間限定で販売する、といったスタイルです。  
 「もしかしたら私にもできるかもしれない、といった起業が、女性の生きがいや日常のやりがいに繋がると思っています」

今回、安藤さんが岐阜市に開業した女性の在宅ワーク・起業支援「ねこのて」は、親子カフェ「こびとのすみか」に併設されています。ここでは母親であることを大切にしながらも、社会と関われるような勉強会・研修会を開催することにも積極的に試みます。  
 「普段、在宅や個々で働いているスタッフたちが、ここで顔を合わせることで、新たな出会いや助け合いが生まれます。子育てなどで一度仕事を離れた女性が復帰する際には、同じような経験のある女性たちと交流を持つことは、安心感につながります」  
 カフェでの支援は、働きたい女性たちの「心のケア」でもあるのです。

安藤さんのもと、自分の力を発揮できるようになった女性たちには、笑顔が溢れています。

輝きだした女性たちの可能性は、時代の風を受けて、ますます拡がり続けていくことでしょう。

